

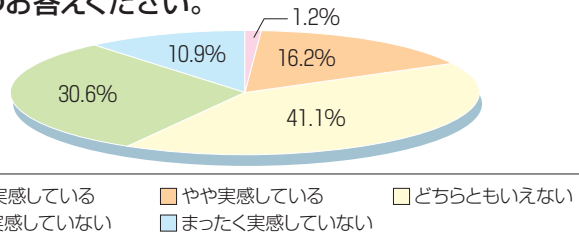
特別調査「中小企業における『成長戦略』への期待について」

問1

本年6月に政府が打ち出した新たな『成長戦略』では、いわゆるアベノミクス効果について「日本経済はあらゆる面で上昇局面に向かっている」としています。貴社では、アベノミクス効果をどのように捉えていますか。これまでの実感について1～5より1つお答えください。また、今後の期待感について6～0より1つお答えください。

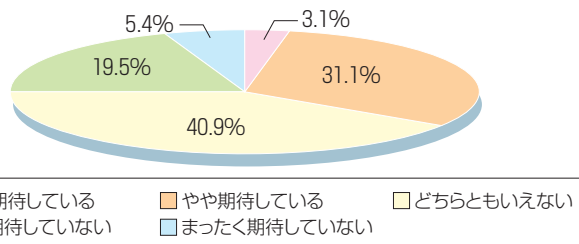
(これまでの実感)

1. 大いに実感している
2. やや実感している
3. どちらともいえない
4. あまり実感していない
5. まったく実感していない



(今後の期待感)

6. 大いに期待している
7. やや期待している
8. どちらともいえない
9. あまり期待していない
0. まったく期待していない

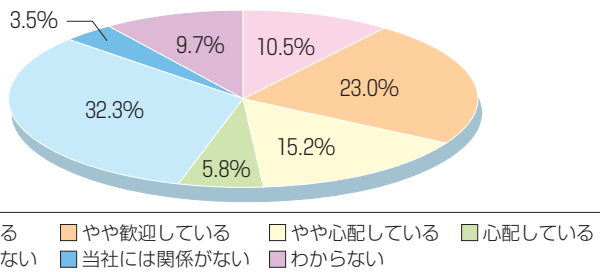


アベノミクス効果に対するこれまでの実感について、最も多い回答は「どちらともいえない」41.1%、次いで「あまり実感していない」30.6%、また、今後の期待感について、最も多い回答は「どちらともいえない」40.9%、次いで「やや期待している」31.1%という結果となりました。

問2

政府が掲げる『成長戦略』では、「法人税率の軽減」と、「代替財源として課税範囲の拡大・見直し」が提唱されています。貴社では法人税制改正案についてどのように捉えていますか、次の1～7より1つお答えください。

1. 歓迎している
2. やや歓迎している
3. やや心配している
4. 心配している
5. どちらでもない
6. 当社には関係がない
7. わからない

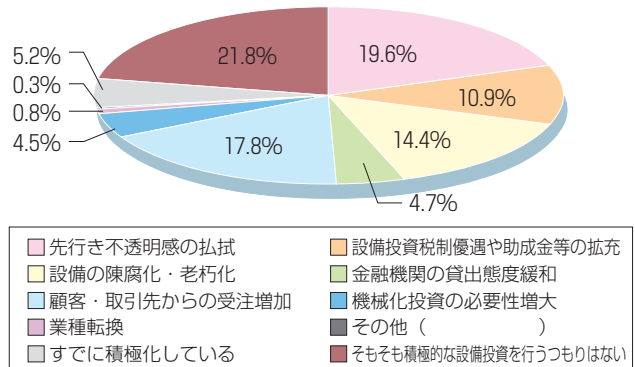


法人税制改正をどのように捉えているかについて、最も多い回答は「どちらでもない」32.3%、次いで「やや歓迎している」23.0%という結果となりました。

問3

政府はこれまで、『成長戦略』の中で企業の設備投資を促しています。こうしたなか、貴社では、どのような状況になれば積極的な設備投資を開始しますか。次の1～0より1つお答えください。

1. 先行き不透明感の払拭
2. 設備投資税制優遇や助成金等の拡充
3. 設備の陳腐化・老朽化
4. 金融機関の貸出態度緩和
5. 顧客・取引先からの受注増加
6. 機械化投資の必要性増大
7. 業種転換
8. その他()
9. すでに積極化している
0. そもそも積極的な設備投資を行うつもりはない

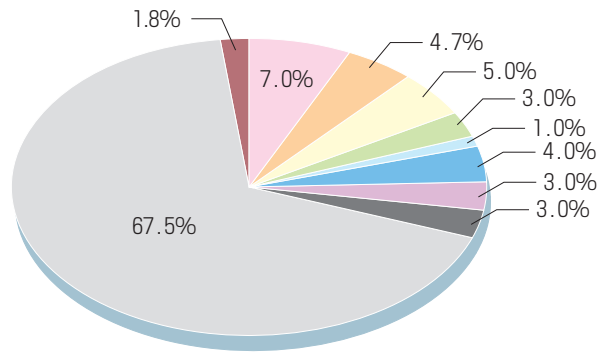


どのような状況になれば積極的な設備投資を開始するかについて、最も多い回答は「そもそも積極的な設備投資を行うつもりはない」21.8%、次いで「先行き不透明感の払拭」19.6%という結果となりました。

問4

一部の地域や業種を中心に人手不足が深刻化していますが、貴社における人材の現況はどうなっていますか。人手不足の方は、人手不足にどう対応しているかについて最も当てはまるものを1～8より1つお答えください。また、人手は適正という方は9と、人手は過剰という方は0とお答えください。

1. 給与・賞与の引上げ
2. 正社員の採用基準緩和
3. 非正規社員の採用拡大
4. 女性・高齢者の活躍
5. 機械化の推進
6. 下請け等へのアウトソーシング
7. 仕事量の調整（受注絞込み等）
8. 対応不能（従業員の努力等）
9. 人手は適正
0. 人手は過剰

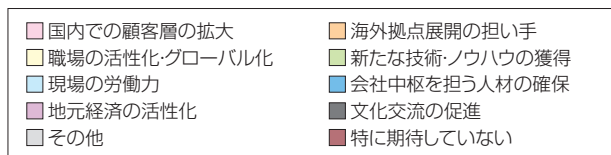
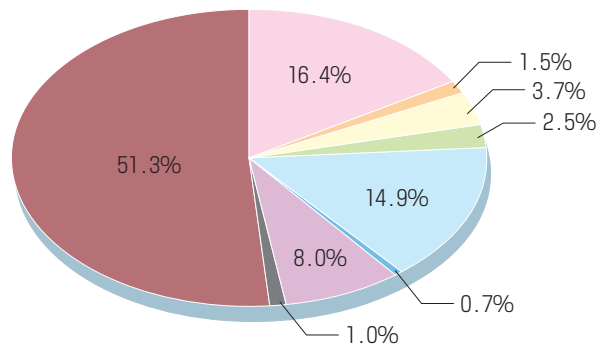


各社における人材の現況はどうなっているかについて、また、人手不足の場合はどう対応しているかについて、最も多い回答は「人手は適正」67.5%、次いで「給与・賞与の引上げ」7.0%という結果となりました。

問5

政府の『成長戦略』では、訪日外国人の増加や外国人技能実習制度の見直しなど、外国人との関わりを増やすような政策が提唱されています。貴社では、外国人との関わり増加にどのような期待感を持っていますか。次の1～0より1つお答えください。

1. 国内での顧客層の拡大（売上増大）
2. 海外拠点展開の担い手
3. 職場の活性化・グローバル化
4. 新たな技術・ノウハウの獲得
5. 現場の労働力
6. 会社中枢を担う人材の確保
7. 地元経済の活性化
8. 文化交流の促進
9. その他（ ）
0. 特に期待していない



外国人との関わり増加にどのような期待感をもっているかについて、最も多い回答は「特に期待していない」51.3%、次いで「国内での顧客層の拡大」16.4%という結果となりました。